

仕事人秘録

川崎氏は28歳のときに交通事故に見舞われた。その経験がその後の人生を大きく変えた。

幼い日の思い出や私に大きな影響を与えた両親の話をする前に、私の体のことを話しておきたい。私が培ってきた強い闘争心とも無縁ではないからだ。

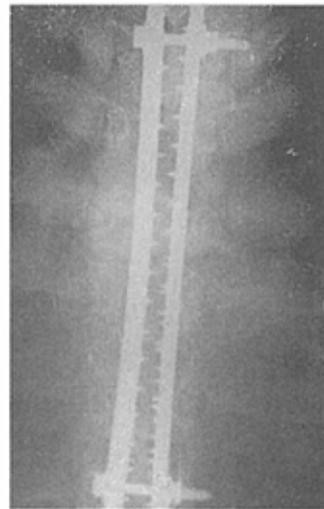
私の体のレントゲン写真にはステンレス製の板がポルトナットで背骨に固定されているのが見える。事故の直後、救命のため急いで手術をした痕跡だ。私の体の奥に残る異物を見ると、ずいぶん荒っぽい手術をされたものだと思う。

私は淡麗なモノを作り、機能美を実現するデザイン

未来の予感を形に ②

工業デザイナー

川崎 和男氏



川崎氏の背骨にはステンレス製の板がポルトで固定されている(レントゲン撮影)

リハビリで知った人間の闇

の電車から地下鉄に乗り換えて、当時は銀座の阪急ビルにあった東芝の意匠部、今で言うデザインセンターに通勤していた。近所の日劇までよく歩いて行った。どの世界にもある。その後、車いすの生活に慣れるためのリハビリが始まり、私は「社会の縮図」を味わう付くのに時間はあまりかからなかった。

ーだ。ところが、その体の内部は何とかが悪いことか。この体内の異物に最初は怒りを感じた。身の回りのモノは何でもデザイン

突され大破したというもの。大けがを負い、もう二度と歩けないと医師に宣告された。

ことになった。比較的早く、車いすで階段などの段差を越えることができるようになる

場合、徹底的に闘うようになった。売られたケンカは買う。自分のデザインと信念は守り通す。いつしか体内の異物への怒りは、仕事や社会の中で筋が通らない

中「かっこう悪い」まま、なすすべもない。「美」のみを信じる私にとって許し難いことだった。

脊椎(せきつい)損傷だ。私がリハビリのために入った病院は通勤で使っていた東急東横線から見えていた。病室の窓から自分が乗っていた電車を眺める

手が上がった。そこまではよい。その後、私に嫉妬(しつと)したりリハビリ仲間

心は不安定なまま。幼いころから自分なりに闘い方を身に付けてきた

事故の内容は川崎氏が乗ったタクシーが車に追

ない気持ちに襲われた。あ

境目をさまよう経験をした

過去がある。

仕事人秘録

川崎氏は1949年、福井市に生まれた。高校生まで過ごした福井の風土が人格形成に少なからず影響を及ぼした。

私が尊敬する福井ゆかりの人物は橋本左内。安政の大獄で処刑された勤皇の志士だ。国家体制に反抗する姿勢を曲げず、死を選んだ左内の生き様に感じるところがある。尊敬する亡き父も福井の男だった。父は警察官だった。ノンキャリア（県に採用された警察官）ながら、警視正にまで昇った人で、苦勞人だ。この時代の父親というものは、子どもに鉄拳制裁を加えるなど当たり前。私の父も厳格だった。

未来の予感を形に ③

工業デザイナー

川崎 和男氏



警察官で厳格な父のもとで育った（子どものころの本人）

いじめが「喧嘩師」の原点

た。現代の若者や親たちの気弱さに懸念を持つという。仕事を始めたころから「デザイナーは喧嘩師でなければならぬ」と胸に刻んでいる。喧嘩の相手は企業や現代社会。デザインを

最近、日本は尖閣諸島を巡って中国と喧嘩して負けた。外交で喧嘩を仕掛ける以上はやり方、つまり戦略を持つべきだ。今回それが見えなかったことに、言いたくない不安を感じている。日本は2度と負けられない。負けた方が「悪」にならなければならない。後には率直に怒りをぶつけてきた。還暦をすぎて最近では「丸くなった」と自分では思っているが、デザイン業界ではまだ怖がられている。厳格な父が大きな壁になった。若者がひ弱になっただけだ。大学選びのときだ。このとき、母の存在が私が美術の

父の仕事には転勤が続き、夕食の時間を狙って相ものだった。転校するたび手の家に殴り込みをした。「いじめ」にあった。泣きともあった。不意を討てばながら家に帰れば「帰って体が大きい相手を倒せ。くるな」としかられた。私の負けず嫌いは知れ渡る。親はこんなことを言えるだろうか。後に大阪で大学の浪人生。私の体は小さい方だった。をしたら何度か喧嘩が、やられたら徹底的にやり返すようになった。どうやら少林拳を仕込まれていた。子どもながらに知恵を巡らせ

仕事人秘録

川崎氏は理数教育に力を入れる進学校、福井県立高志高校に進学。当初は大学の医学部を目指した。

「大学にいくなら東大か防衛大だ」。父はいかにも警察幹部らしい話を私に言っていて聞かせた。つまり国家に貢献する官僚もしくは自衛官にならないのなら大学に行く意味はないという。私は作家志望だった。子どものころ、本を読めば祖父や父から小遣いがもらえた。角川書店の日本文学全集と平凡社の世界文学全集が家に置いてあり、スタンダールやドストエフスキーに感銘を受けた。だが、そんなことを父に

未来の予感を形に ④

工業デザイナー

川崎 和男氏



美大進学を応援してくれた母④と子ども時代の本人

母の応援で美大に進学

びていたイラストレーターころ、母と買い物に行った横尾忠則さんの作品を見て背筋が震えた。こんな表現の仕方があるのかと感激し、デザイナーという職業を知った。

当時は平凡パンチなどイラストが豊富な雑誌が世の中に出てきたばかり。医学部よりも美術を勉強できる大学に気持ちが動いた。

「美大に進学したい」とまず母に相談すると「あなは医者には似合わない」と思いがけない言葉が返ってきた。父は予想通り怒ったが、母が味方してくれたおかげで受験でき、金沢美術工芸大学に合格した。

母も父に負けず劣らず肝が据わっていた。大学生の

向かって言い出せばどうなるか知れたことだったので一計を案じた。作家や歌人には森鷗外といい斎藤茂吉といいい医者が多い。まずは医者を目指そうと考えた。

父に話すと「まあ医者ならよいか」という。父にすれば東大か京大の医学部を目指すと思っていたのだろ

うが、私はスキーが得意で札幌市にある札幌医科大学

に進学したかった。同大学は当時、最先端の心臓移植に取り組んでおり「ここには森鷗外といいい斎藤茂吉といいい医者が多い」とい

い医者が多い。まずは医者を目指そうと考えた。

札幌医科大学の試験には不合格。大阪で予備校に通いながら、1年間の浪人生活を送った。

予備校時代、寺山修司が主宰する劇団「天井桟敷」のポスターなどで注目を浴

1981年の冬、故郷の福井市に戻った。

デザイナーとして独立した後は猛烈な勢いで仕事をした。仕事をしていけば車いす姿の自分を忘れることができた。ただ、もうかる仕事の多くは自分の本来のデザイナーとしての志からかけ離れたものになっていった。福井に戻ることは自身の原点に戻るために必要だった。

81年は世に言う「五六豪雪」で、日本海側はまれに見る大雪に見舞われた。当時の私の妻は私のためを思って福井行きを勧めてくれた。そんな彼女ですら、雪国の想像以上に暗くて厳しい冬にはショックを受けて

未来の予感を形に

⑦

工業デザイナー

川崎 和男氏



故郷でデザインの仕事をみつけることは大変だった

故郷で伝統工芸に着想

いたようだった。

しかしこの北陸の厳しい風土が幼いころの私を育てたことを思い返した。生まれて育った北陸から新しいデザインの風を巻き起こし、東京へ再び乗り込む。そう考えて自分を奮い立たせるしかなかった。

ところが東京時代に比べると仕事は一気に減った。公共事業に頼る地方の経済は規模も小さく、活力もあ

あるが福井にはないものばかりを意識していたように思う。

東京になって、福井にしかないものを探し始めた。

産業や消費人口の集積で一地方にすぎない福井が東京にかなうわけがない。

と出会う機会があり「漆をデザインしてみたい」と伝えた。先生からは「その前に花鳥風月を見つめ直しなさい」と言われた。つまり古今和歌集や新古今和歌集をしっかりと読めということだった。このヒントのおかげで、私は日本美にふさわしいデザインは何であるかを意識するようになった。

福井の伝統工芸品を持つ日本美にデザインを取り入れたらいいと思いついた。武生市（現越前市）にあった工業試験場を訪ねた。そこで出会った越前打刃物とその職人たちの姿をみて「東京にはない」と直感。刃物をデザインしたいと持ちかけた。だが職人たちは最初の内は口もきいてくれなかった。デザインという私の肩書に不信感を持っていたから

このころ、母校の金沢美術工芸大学名誉教授で漆芸の大家である小松芳光先生だ。

仕事人秘録

福井県の越前打刃物をデザインしようと決心したが、職人たちとの距離を縮めることに苦慮した。

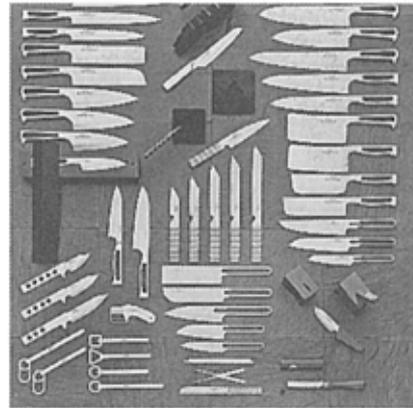
1980年代前半のころだったが、職人たちからは「デザイナー」というカタカナ職業がうさんくさく思えたのだろう。標準語を話しながら「マーケティング」や「コンセプト」など専門用語を使うことも印象を悪くした。

最初の3カ月ほどは口ずらきいてもらえなかった。私は福井弁で話すように心がけ、武生市（現越前市）にある工業試験場に通い詰めた。包丁のスケッチを何百枚も描き、作りたい形を訴え続けた。やがて職人の

未来の予感を形に ⑧

工業デザイナー

川崎 和男氏



700年の伝統がある越前打刃物を工業デザインにより刷新した

職人と「現代の機能美」追求

1人が「どれを作ればいいのか」と応じてくれた。

つながった。

越前打刃物は熟した鉄を打ち延ばす鍛造品だ。南北朝時代に京都から来た刀匠が伝えたとされる。職人がつくる包丁には深みと味わいがある。

刃物は道具の基本だ。人類によるものづくりは石包丁から始まった。越前打刃物の出会いは工業デザインの原点に立ち返ることに

伝統を守る職人との共同

作業は簡単ではない。理想

と云われた。もくろみ通り、

主眼者であるデザイナーと現実主義者である職人とのものがつくりをめぐる戦いだ。職人の経験に裏打ちされた刃物の強度や機能を守りながら、どうやって現代的な美しさを高めるか。議論を尽くした。

地方から東京をあとと言わせるデザインを仕掛けることができた。工業試験場の職人たちが結成したタケフナイビレッジ協同組合（福井県越前市）は私が命

ドで知られ、医療用など高画質液晶モニターを手掛ける。値崩れが進む中、高級品で分別化するためにデザインを刷新。ブランド名の統一を進言するなどし、売上高の増大と東京証券取引所1部市場への上場に貢献できたと思う。地方の伝統産業や企業の力をデザイン

84年、キッチンナイフなどをデザインした「タ

仕事にめぐってきたが、すぐに東京に戻ろうとはしな

眺めているだけならできない仕事だった。

仕事人秘録

1980年代に地方からのデザイン発信に成功した川崎氏は90年代に仕事の領域を広げた。

デザインの対象になっていなかったモノの美を実現することにやりがいを感じた。車いすはその1つ。実際に使っていると、着ている服のすそが擦れてポロボロになってしまうというような機能面の問題も解決したかった。

はくと身も心も軽やかになるスニーカーのような「車イス」を作りたいと考えた。世界一軽いうえ、折り畳めて収納しやすく、座る人が快適で疲れない形を求め、8年間アイデアを練った。

未来の予感を形に ⑨

工業デザイナー

川崎 和男氏



シンプルで洗練された形ながら車イスとしての機能を十分に果たすCARNA

意匠と芸術、横断に挑む

その結果、生まれたのが車イスCARNAだ。ラテン語で生活の守護女神を意味する。背もたれにはエアシート状のクッションを使い快適さを高めた。優美な形と色合いから「まるでフェラーリだ」と言ってくれた人もいる。この車イスは90年の毎日デザイン賞を受賞。ニューヨーク近代美術館の永久収蔵品に選ばれた。

た。デザインが美しさと同時に機能まで高めた点を評価されたのだろう。94年には東京都内で個性を開いた。それまでの成果を踏まえ、デザインと芸術の横断を試みた。複数のオブリジェと、私が愛するザ・ビットルズの音楽からなる作品「プラトンのオルゴール」は、金沢21世紀美術館（金沢市）で2006年開

かれた私の作品展でも再現できた。経営陣のデザインに対する意識は全般的に海外と比べて低いと思う。

01〜03年までグッドデザイン（Gマーク）賞の審査委員長を務めた。

それまでも企業の製品デザインに苦言を呈してきた。顧問就任や助言を求めた。顧客には、取締役会など

経営陣がさうらう場で話をさせると主張してきた。経営陣の意識から変えなければならぬからだ。企業に対し従順でない「喧嘩（けんか）師」と呼ばれることも多い私がグッドデザイン賞の審査委員に指名されたことは驚きだったが、おかげで日本の名だたる企業のデザインへの取り組み状況を知ること

ができた。経営陣のデザインに対する意識は全般的に海外と比べて低いと思う。たとえば海外展開している日本の大手製造業でデザイン専任の取締役を置いている企業は非常に少ない。経営陣にデザインが分かる人を置かないとどういことが起きるか。サムスンなど韓国の電機メーカーの家電分野での躍進と、それに対抗できなかった日本企業の製品を見比べればよく分かる。製品の性能に自信がある日本企業は当初、国をあげてデザインに資金・人材を投じる韓国を冷やかに見ていたと思う。しかし性能はすぐに追いつかれるもの

仕事人秘録

1996年、川崎氏は
名古屋市立大学に新設さ
れた芸術工学部の教授に
招かれた。

名古屋大は私が提示し
た教授就任の条件に応じて
くれた。例えば、私が米国
で注目した2億円もする光
造形システムを導入してく
れた。「メビウスの輪」の
ように図面上で想像はでき
ても実物に落とすことがで
きなかった造形を可能にす
る優れたものだ。この装置に
よって人工心臓のデザイン
を進めることになった。

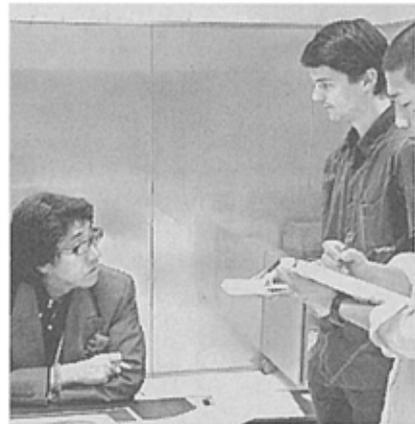
在職中、人工心臓の成果
をもとに医学博士号を得
た。若いころ医者をめざす
ことを父に約束したが、工
業デザイナーの道を選ん

未来の予感を形に

⑩

工業デザイナー

川崎 和男氏



大阪大学の研究室で大学
院生を指導する川崎氏⑩

構想巡り溝、学長就任辞退

らと新設大学のあり方につ
いて話し合うため、札幌を
毎月訪れていた。財政破綻
した夕張市の問題解決に貢
献する活動や、北海道に基
地が多い自衛隊に1年生を
体験入隊させて多くの「気
づき」を得てもらった学習
など、運営構想を温めた。

職の辞退を決意した。

多くの大学教員は実績と
関係なく、いつまでも地位
にとどまることができる。

だ。30年後、デザインの経
験を生かして医学を研究す
る立場になったことを父も
喜んでくれたようだ。

初代学長に内定後は、大
学の制度設計に関与できる
と思っていたが「黙ってい
てくれ」という雰囲気だっ
た。実力主義で教員を採用
したいが市側と意見が合わ
ない。公立大学だから合議
でどう」と言う人がけっこ
り多かった。

大学で仕事する際もデザ
イナーの仕事と同様に自分
の信念に基づいて行動し
てきた。日本の大学はデザ
インを美術に分類することが多
く、工学や医学とのかかわ
りが軽視されてきた。私は
デザインが医学と工学が連

携するための接着剤の役割
を果たせると考えてきた。
医学や工学の問題解決に、
工業デザイナーの思考が有効
であることを名古屋大に
いた10年間で世に示すこと
ができたと思う。

2004年、新設され
た札幌市立大学の初代学
長に内定したが、その2
カ月後に白紙になった。
内定前の1年ほどは市長

重視はある程度仕方がな
ういた。何がめでたいのか。
だが、リーダーシップ
を認めないのなら私はただ
の看板になってしまふ。
期待してくれた市民や受
を象徴している。

仕事人秘録

1994年に心臓発作で倒れ、半年近く入院した。

講演している最中に目まがいや視界が暗くなる体の異変が起きた。交通事故で歩けなくなってから17年。再び生死の境目をさまようことになった。発作の原因は交通事故の大きいの後遺症。傷だらけの体を長年酷使してきた結果だった。

入院生活から復活して仕事を再開したが、常に薬を持ち歩き、頻繁に医師の診察を受けるようになった。おのずと死を意識し始めた。47歳で亡くなった母の年齢に近づいていた。

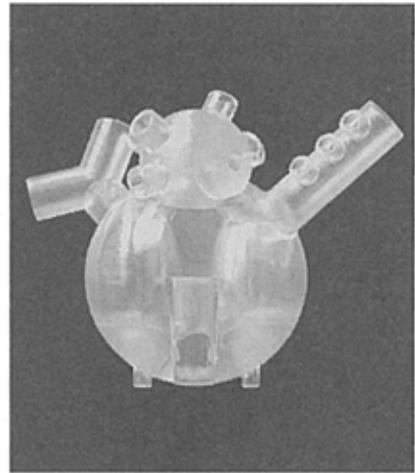
このころ、デザイン界では大きな賞である国井喜太

未来の予感を形に

①

工業デザイナー

川崎 和男氏



デザインした人工心臓

心臓発作経て「命」テーマに

学部の研究者の協力のもとで動物を使った実験を進めている。高度な安全性が求められるため、短期間で実用化できるわけではない。時間はかかるだろうが、地道に続けていこうと思う。紛争地の難民キャンプや病院は混乱を極める。医療人員が限られる中、誰でも安全に扱える万国共通の医療機器をデザインする必要がすぐ実現すること、すぐ流行することほど廃れるの

の思いが膨らみ、デザインによって平和に貢献する活動ができないかと考えるようになった。

郎産業工芸賞を受賞した。国内外から有名な賞を与えられるので賞のコレクターのような気分になりかけていた。そのため、新しい挑戦の場を探り始めていた。心臓発作を経て、生命と向き合うデザインを追い求めた。

母の一生と同じ時間を生きた後は、新たな人生を歩もうという気持ちになっ

た。人工心臓のデザインはも早い。気まぐれな消費者に振り回されるデザインほどそうなりがちだ。私はやはりや廃りとは無縁のデザインを続けて行こうと思

う。周囲から「まだやってたの」とあきれられるくらいの方が楽しい。

人工心臓のデザインを通じて医療分野の人々と交流し、人命を守る現場に思いを寄せる機会が増えた。そ

い

「ピース・キーピング・デザイン(PKD)」と名付けて続けている。日本は世界の平和に貢献しなければならぬ国。工業デザイナーとしての経験も役立てたいと願っている。

人工心臓など先端分野のデザインに挑むことができたのは、パソコン黎明(れいめい)期の1980年代からコンピューターを積極的に導入してきた結果だった。

84年、アップルの初期パソコン「マッキントッシュ128K」が発売された時は、これからのデザインのツールになると直感した。いまやデザイン業界だけでなくアートの世界でもマックは必需品となっているが、私は比較的早い時期から自分の仕事に取り入れることができた。

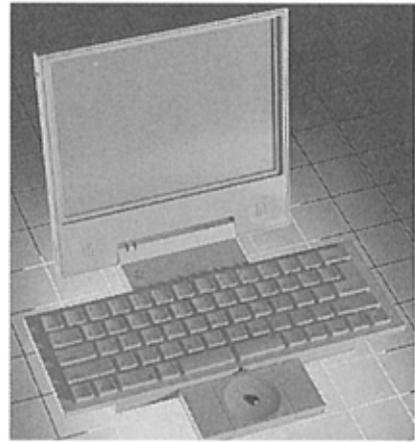
福井市を拠点に活動していた80年代、高校時代の友人が事務機器販売会社の社

未来の予感を形に

⑫

工業デザイナー

川崎 和男氏



コンパクトで操作性の高いデザインを提案した

アップルとの縁 20年近く

ルタントを引き受けた。アップルの組織と製品をデザイン担当者に私の構想を語った。当時会長だったジョン・スカリー氏に呼ばれ「アラン・ケイにも君のプレゼンテーションを見せなさい」と言われた。アップルの父」と尊敬される科学者にとっても夢のような出来事だった。

アップル本社で技術者やデザイナーに私の構想を語った。当時会長だったジョン・スカリー氏に呼ばれ「アラン・ケイにも君のプレゼンテーションを見せなさい」と言われた。アップルの父」と尊敬される科学者にとっても夢のような出来事だった。

長をしていた縁でワープロをマスターしていた。東京でさえパソコンの最新知識を持つ人が少ない時代。私は集められるだけのパソコン関連書籍・雑誌を読み、プログラム言語の構造などを独学した。

その後も同社の関係者との交流は続いている。東京・銀座のアップルストアでデザインをテーマに講演することもある。

当時、ワープロをマスターして、東京でさえパソコンの最新知識を持つ人が少ない時代。私は集められるだけのパソコン関連書籍・雑誌を読み、プログラム言語の構造などを独学した。

その後も同社の関係者との交流は続いている。東京・銀座のアップルストアでデザインをテーマに講演することもある。

アップルのデザインコンサ

仕事人秘録

川崎氏は今年7月、かつて勤めていた東芝の音響事業部の同窓会に参加した。

約30年前の交通事故がきっかけとなり、デザイナーとして独立する際、東芝の多くの上司や先輩にあいさつできないまま退職したのが心残りだった。

久しぶりに会った人たちからは「頑張ってるな」「テレビでみたぞ」と声をかけられ、心が温まった。音響事業部は時代の流れの中で閉鎖された部門だが、巣立った人材は社内外で活躍している。

昨年秋季には東芝の幹部講習会の講師に呼ばれた。西室泰三相談役から「君と同

未来の予感を形に

⑬

工業デザイナー

川崎 和男氏



妻の浩子さんは川崎氏の事務所の社長も務める

デザインの力、海を越えて

業への助言など多忙な日々を過ごす中、妻の浩子さんの支えで成り立っている。日本は海を通じ、外に向

デザイナーでもある妻に、私のデザイン事務所の社長をしてもらっている。名古屋市立大学に在職していた時の助手で、年齢は私よりかなり年下だが、今と

期だぞ」と佐々木則夫社長を紹介された。妻には「独立していなかつたら、私が社長のイスに座っていた」と伝えた。退職して長い年月が経ったが、古巣の人々との交流は財産だと思

今亡き父は「警察大にちなみに西室さんが愛用してくれているステッキとメ

今年6月にもうれしいこ

なつては一番頭があがらない存在だ。大阪大学に赴任してから4年になる。今、教育の現場で力を入れているのは海をこれからも多くの人々に

府立大学、神戸大学の「関

大学から洋上に構築するメ